

ヒューロン大学 (カナダ)

<Sociology>

このクラスは1年間のクラスです。エッセイ課題や授業の参加点ではなくすべてテストや毎週のチャプタークイズで評価のクラスです。先生もすごくいい方でテストに出る問題を少し授業中に教えてくれたり、テストの点が悪かった人に救済措置を設けるなど単位習得はできるクラスだと思います。また、授業内容がすごく面白くなるものばかりなので勉強をされていて苦痛ではないです。テストもすごく難しいというよりはしっかり教科書と授業スライドを見直して深く理解をすれば点数がとれるものです。履修をおすすめします。

<In search of Canada>

この授業はエッセイ(ブックレビュー)とテストの両方があります。毎週のリーディング課題ではなく、たまに授業内のグループで話し合ったトピックに関する自分の考えを投稿する課題があります。その代わりに大きなブックレビューとテストの課題が主な評価対象です。ブックレビューはカナダのウラン採掘における先住民への被害を取り上げた本を読み8ページのブックレビューを書きました。テストはエッセイ形式で授業内容を踏まえてエッセイを書きました。なかなか知ることのできないカナダの歴史のいい面も悪い面も授業を通して学ぶことが出来るためとても面白かったです。

<Histories of Love>

この授業はエッセイコースでテストはありませんが課題がとても大変でした。ヒストリーの授業特有のリーディングの多さ(昔の文章で言い回しや単語が知らないものが多い)にとっても苦しみました。全5回のリーディングレスポンスと8ページほどのエッセイが3つありました。先生の成績評価は甘いのですが、なんといっても課題が難しくネイティブの友達でも理解に苦しんでいました。また、スライドをアップロードしてもらえないため授業中は集中して聞き逃さないようにしなければなりません。ファイナルエッセイで4つ以上授業内容を引用しないといけないため私は友達に授業ノートを送ってもらいました。大変な時は友達に助けを求めることが大切です。大変ですが愛の歴史について学べるのはとても貴重で楽しかったです。

<Special Topics in Japan>

このクラスはテストがないエッセイコースです。3から4ページの授業内容に関するトピックリフレクションが3つと8から12ページのファイナル課題があります。比較的自由にリサーチトピックを決めることが出来、また日本語文献も使うことが出来るので資料探しは少し楽にできるかと思います。先生は日本語専攻の生徒みんなから愛されている先生で、とても親身になって課題の相談など乗ってくれるためとてもおすすめです。

サザン・メイン大学 (アメリカ)

驚くことに帰国まで2週間ほどになりました。やっと雪が溶けて、暖かい日が続いて春を感じていたら、急に寒くなり寒暖差で風邪をひいたところです。アメリカでの日々を思い返して過去の思い出に浸る間もなく、Finalsの課題やスピーチ、テストに追われ、一日が24時間では足りません。一日が長く感じて仕方がなかった去年9月に比べたら、生活リズムもルーティーンも決まって本当にここでの生活に適応したことを意味すると思うので、今更ですが成長したなと感じています。

ハルムスタード大学（スウェーデン）

Student UnionとHealth Care Centerが主催する定期的なイベントとして、今学期からCooking Eventが始まった。イベントでは、毎回集まる10人程度の学生・スタッフ等と協力しながらかなりの量の料理を作り、そして美味しく食べる。メニューはVeganを中心としており、初めて参加した際は肉の代替としてひよこ豆を使用したインドカレーを作った。普段は考えないような意外な食材の組み合わせや、手軽に入手できるが調理方法が分からなかった為に今まで一度も自炊で使用したことがなかった材料など、留学を通して一人暮らしを経験している私にとっては非常に学びの多いイベントとなっている。

2回目に参加した際には、Veganのハンバーガーを一から作った。パテはズッキーニを中心に使用したものと、赤い豆を中心に使用した二種類を用意し、その他サイドサラダやポテトなどを加えた栄養たっぷりのディナーとなった。また、バンズはソフランを生地に混ぜて作り、やや丸みの強い食べづらい形に焼き上がったが美味しく食べる事ができた。

東海大学（台湾）

授業が一緒に仲良くなったアメリカ人の女の子と、彼女の友達（アメリカ人）、私の日本人の友だちの4人で高雄と言う台湾の南部に位置する都市に旅行しに行きました。私の友達は中国語は流暢に話すことができますが、英語はほとんどできない、また、アメリカの子たちはもちろん英語ネイティブですが、中国語は始めたてと言う感じでした。なので、言語翻訳としての役割が必要かと思ったのですが、高雄の自然や文化に特色があるおかげで、見るものが多く、簡単な英語や中国語、ジェスチャーを通してのコミュニケーションだけで十分仲良くなることができ、観光における異国間の仲良くなりやすさと言う可能性を感じた時でした。

ベネチア大学（イタリア）

今月はHistory Of Italian Cultureと Introduction To Classicsの二つの授業でテストがありました。Italian Cultureはイタリアの文化や歴史を学ぶ授業で、主に生徒のプレゼンによって授業が進みます。プレゼンのテーマはオペラの歴史やフェミニズム、イタリア統一運動、ファシズムなどです。この授業では成績評価もこのプレゼンと、その後の質疑応答でなされます。後半には時間があまったのでフィールドワークとして、ベネチアにある美術館を皆で周りました。より深くイタリアやヨーロッパにの歴史を学ぶことができました。

Classicsの授業では、ギリシャ時代の叙事詩やローマ帝国時代の文献を扱います。ギリシャ時代の資料ではホメロスのイリオスやオデュッセイ、エピクロスなどの基本的な人物・文献について、ローマ時代ではカエサルについて学びました。授業課題としては、ホメロスのイオリスの一部分から比喩、形容詞、セットフレーズを抜き出しました。セットフレーズは直訳では理解できない部分、ここでいう形容詞は'Father Zeus'や'Zeus-born Odysseus'のように説明している箇所、比喩は詩の内容を別のストーリーで説明している箇所のことです。大昔の詩なので単語や文章は難解でした。最終試験では、各人が興味を持った分野に関する資料を先生が送ってくれたので、それを元に口頭諮問で行われました。質問内容はなぜその分野に興味を持ったのかという基本的な項目から、渡された文献の要約、フォローアップの質問という流れでした。フォローアップの質問は、「ギリシャで初めて叙事詩を広めた人物」や「ルクレティウスが影響を受けたエピクロス以外の人物は誰か」などといった細かい質問もありました。基本的な質問に回答できればそこそこの点はもらえました。